



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号
(8月24日～9月15日)



平成29年8月23日発表 樹上選果マン
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

つがるの収穫は、9月7日頃から！
着果量を点検し、樹上選果の徹底を!!
風害防止対策を万全に!!!

I 要 約

8月中旬は、低温で日照が少なく経過したが、果実肥大の伸びは順調であり、8月21日現在の果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは、黒石で9月7日頃から見込まれる。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせてすぐりもぎを行う。

成らせすぎの樹がまだ見られるので、高品質生産と充実した花芽形成のため、今一度着果量を点検し、樹上選果を徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月29日～30日頃に行う。

モモシクイガの産卵が継続しているため、無袋栽培ではモモシクイガ防除剤も使用する。

黒星病の発生園地では、葉摘み等の作業の際に被害果や被害葉の摘み取り処分を徹底する。また、発生が多い園地では、秋季感染を防ぐため9月15日頃にすす斑病・すす点病の特別散布で使用する薬剤の中から、収穫時期と散布時期に注意しオーソサイド水和剤800倍又はストライド顆粒水和剤1500倍を選択して散布する。

台風に備え、防風網の点検、整備など風害防止対策をしっかりと行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

8月中旬は、低温で日照が少なく経過したが、果実肥大の伸びは順調であり、8月21日現在の果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

果実肥大 (8月21日現在、横径：cm、平年比：%)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	8.1	/	7.5
	平年	8.0		7.2
	前年	8.0		6.9
	平年比	101		104
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	8.6	/	7.6
	平年	8.3		7.1
	前年	8.5		7.0
	平年比	104		107
板柳町高増 (西北地域県民局)	本年	8.2	7.9	7.6
	平年	8.3	8.1	7.1
	前年	8.4	8.5	7.3
	平年比	99	98	107
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	8.1	7.4	7.2
	平年	8.1	7.7	6.9
	前年	8.4	7.7	7.1
	平年比	100	96	104

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月20日現在の熟度は、黒石で平年値と比較して、糖度及び着色指数は高く、硬度は平年並、ヨード反応はやや低く、酸度は低い。総合的にみて、熟度は平年より3日程度進んでいると見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：黒石8月20日)

地域	年	果重 (g)	着色	硬度 (ホント°)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒石 (りんご研究所)	本年	222	0.8	16.4	11.3	0.255	4.6
	平年	223	0.5	16.4	10.8	0.328	4.8
	前年	224	0.6	16.1	11.4	0.245	4.6

注1 着色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 落果防止剤散布：8月16日

(3) 作業の進み(8月21日現在)

支柱入れやつがるの葉摘みが行われている。未希ライフの収穫が始まっている。

2 作業の重点

(1) つがるなど早生種の収穫

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、早生種の収穫始めは黒石で、きおうが8月29日頃、さんさが9月4日頃、つがるが9月7日頃と見込まれる。

つがるなど早生種は、熟期が揃わないので地色、着色を見て2～3回くらいに分けて収穫する。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。

樹上選果作業時に見落としした変形果や傷（障）害程度の大きい果実などは山選果で取り除き、良品出荷に努める。なお、山選果で取り除いた果実は、できるだけ加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

なお、ストップール液剤を散布した果実の収穫は、散布7日後まで、ヒオモン水溶剤を散布した果実の収穫は、散布4日後までではできないので注意する。

(2) 樹上選果

成らせすぎの樹がまだ見られる。高品質りんご生産や充実した花芽形成のため、今一度着果量を点検し、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病などの病害虫被害果、障害果の摘果を徹底する。

(3) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病害虫の発生源を少なくし、薬剤の到達と日光の透過をよくするために、黄色品種でも不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、日焼けが発生しないように注意しながら支柱入れや枝吊りを行う。

なお、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(4) 薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月29日～30日頃である。なお、薬剤の散布に当たっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

11回目：「8月末」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a
黒石 弘前 三戸	8月29日 ～30日頃	ベフラン液剤25 1,500倍 又はフリントフロアブル25 3,000倍 又はストロビードライフロアブル 3,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	5000

- ①フリントフロアブル25、ストロビードライフロアブル、ナリアWDGは同じ系統で薬剤耐性発達の懸念があるため、各薬剤の使用は年1回以内とし、合わせて年2回以内の使用とする。
- ②ストロビードライフロアブルは、スミチオン水和剤40との組み合わせで「つがる」に薬害が発生した事例がある。
- ③フリントフロアブル25とナリアWDGは、スミチオン水和剤40との組み合わせで「つがる」に薬害を発生させるおそれがある。
- ④ベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(5) 黒星病対策

黒星病の発生園地では、病原菌の密度を下げるため、葉摘み等の作業の際に、被害果や被害葉を摘み取り、土中に埋めるなど適正に処分する。

また、発生の多い園地では、秋季感染を防ぐため「9月15日頃」にすす斑病・すす点病の特別散布で使用する薬剤の中から、オーソサイド水和剤80の800倍又はストライド顆粒水和剤1,500倍を選択して散布する。なお、オーソサイド水和剤80の使用時期は、収穫14日前までなので注意する。

(6) すず斑病・すす点病対策

発生が例年多いところや9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に「9月15日頃」に、オーソサイド水和剤80の800倍、ストライド顆粒水和剤1,500倍、トップジンM水和剤1,500倍のいずれかを特別散布する。

(7) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

(8) 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

炭疽病に対し、ベフラン液剤25は効果がないので、例年発生が見られる園地では使用しない。また、発生の多いところや多発が懸念される場合はフリントフロアブル25又はナリアWDGを選択する。

(9) 腐らん病対策

夏場は病斑の拡大が一時停止しているが、降雨により未処置病斑から孢子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

(10) モモシンクイガ対策

産卵が続いているので、無袋栽培では、モモシンクイガ防除剤を使用する。被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(11) ナシヒメシンクイ対策

発生の多い園地では、9月以降もナシヒメシンクイ防除剤を使用する。

(12) リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多いところでは、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して適期にサムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルSE5,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍、ディアナWDG10,000倍のいずれかを散布する。また、果実に接触している葉を摘み取って、果実被害の軽減に努める。

(13) ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は、1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは、作用点と同じ薬剤なので合わせて年1回以内の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニゲッターフロアブル	1回	○	○
スターマイトフロアブル	1回	○	○
ダニコングフロアブル	1回	○	○

○：適用する、×：適用しない

(14) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(15) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじは9月15日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）は9月20日頃からは行う。

なお、早くからの強い葉摘みは、品質低下を招くので行わない。

摘葉剤ジョンカラプロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(16) 中生種の除袋

ジョナゴールドの除袋は、9月15日～25日にかけて行う。着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉を摘み取る。

日焼けを出さないため、二重袋の内袋は、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時にはぐ。

(17) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットの発生が懸念されるので、カルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）のおそれがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(18) 風害防止対策

台風等に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(19) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。

3 一般作業

- (1) 苦土欠乏対策 (2) 草刈り

4 今後の作業予定

- (1) 樹上選果 (2) 着色手入れ、除袋、収穫
(3) 風害防止対策 (4) 支柱手直し (5) 鳥害防止対策 (6) 草刈り
(7) 腐らん病対策

次回の「りんご生産情報」第11号は9月15日(金)発表の予定

— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —

美味しいりんごを届けよう！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合、ラベル等の記載事項を読み、それぞれの農薬に定められている使用回数、使用時期、使用濃度を厳守し、使用状況を記帳する。使用回数については、含まれる成分によって制限されるので、同一成分が含まれる剤の総使用回数を守る。また、使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認する。

農薬の使用前には、防除器具が洗浄されているかを確認するとともに、使用後は、十分洗浄する。

なお、薬剤の年間使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの1年間に使用できる回数である。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

～青森県農薬危害防止運動実施中（5月1日～8月31日）～

《 《 参観デーのお知らせ 《 《

りんご研究所（黒石市）	9月 7日（木）	9時～16時
	～8日（金）	9時～15時
りんご研究所県南果樹部（五戸町）	9月13日（水）	9時～16時

詳しくは、産業技術センターりんご研究所のホームページ（<http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=1141>）をご覧ください。

熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

農業機械事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

地域ぐるみで放任園の発生防止と解消に努めましょう！

連絡先	： りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	： 017-722-1111代表 内線 5094, 5092 017-734-9492直通

(※投げ込み用)

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ 小松総括主幹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 田中農商工連携推進監 内線 4966